

## LPガスCP速報(2023年11月積)

### 1. 11月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **610**  $\text{ドル}$  (前月比+10  $\text{ドル}$ )

ブタン **620**  $\text{ドル}$  (前月比+5  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東情勢の緊迫化で原油市況が乱高下するなか、LPガス市況は、後半に強含みの展開となった。中東市場は、スポット供給余力が限定的となっていたが、サウジなど回復傾向、一方、需要は、インド、東南アジアが堅調であったものの、国慶節明けも中国PDH需要は、プロピレン供給過剰により市況軟化で設備の稼働率が上がらず、極東の在庫高と温暖な気候も相まって需要は低迷、また、米国玉の流入は堅調に推移、供給は潤沢で需給にタイト感はなかった。極東CFR市況は、フレート市況の高騰が続き、第3週でプロパン、ブタン670  $\text{ドル}$  どころ、第4週も続伸となったが、プレミアムは一服。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調、供給は潤沢、需要は低迷し全米プロパン在庫は増加が続き5年平均レンジを上抜け、過去最高水準に迫っている。エンタープライズのターミナルの不具合で荷役が遅れ、不可抗力条項が発動されたが、徐々に回復に向かっている。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の軟化と在庫高で反落した。MB月間平均は前月比25  $\text{ドル}$  反落の355  $\text{ドル}/\text{トン}$  どころ (グラフ①参照)。ブタンは、350~375  $\text{ドル}$  で推移。

フレート市況は、史上最高値を更新した前月市況から軟化した。極東需要が、中国の国慶節と石化需要の低迷等で傭船需要が弱く、中東船舶需給は緩和したが、需要期を迎え市況は強含み。米国~極東のプレミアムが拡大し米国向け船舶が増加したが、米サプライヤーが輸出関連設備の不具合でフォースマジュール (不可抗力条項) を宣言、米国市況も軟化に転じた。スポット運賃は (米国~日本) は第1週の230  $\text{ドル}$  から第3週には190  $\text{ドル}$  まで下げている。パナマ運河の滞船日数は、7日ほど、予約ルール変更でコスト上昇が懸念される。

ナフサ市況は反落、月間平均は前月比35  $\text{ドル}$  の下落で667  $\text{ドル}$  どころ。原油市況の軟化と石化需要の回復の遅れが要因。石化用ブタンの需要も伸び悩んでいる。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比58  $\text{ドル}$  続落の487  $\text{ドル}$  どころ、LSMGO (低硫黄マリンガスオイル) は同55  $\text{ドル}$  反落の892  $\text{ドル}$  どころ、ガスオイルとC重油との格差は406  $\text{ドル}$  に拡大した。

11月CPは前年同月比プロパン横這い、ブタン10  $\text{ドル}$  の上昇。原油 (アラビアン・ライト) 熱量等価換算 (下記参照) では、前月に比べプロパン、ブタンともに4ポイント上昇、前年同月比ではプロパン3ポイント、ブタン5ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート (中東)	120	110	110	130	118
CP先物指標 : P	585	580	590	595	588
CP先物指標 : B	590	585	605	605	596

#### ② 原油市況等

10月の原油市況は、中東地政学リスクを巡り乱高下した。ハマスのイスラエル急襲で急騰した原油市況は、イスラエルのガザ侵攻により中東紛争拡大・原油途絶懸念から19日にはWTIが89.37  $\text{ドル}$ 、ブレント原油で92.38  $\text{ドル}$  まで上昇した。各国の外交努力等で30日にはプレミアムは解消された形だが、紛争の長期化が懸念され予断を許さない。OPECプラスの供給削減のなか、高金利と各地の戦争で世界経済見通しは下方修正、金融商品化した原油市況は、需給ファンダメンタルズとマクロ経済動向の綱引きに加え、地政学上のリスクも抱え、ボラティリティが高くなっている。

○10月積みアラビアン・ライト (10月1~30日までの想定) は93.40  $\text{ドル}$  (前月比-3.14  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 765.78  $\text{ドル}/\text{トン}$  ブタン 755.28  $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン 79.66% ブタン 82.09%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

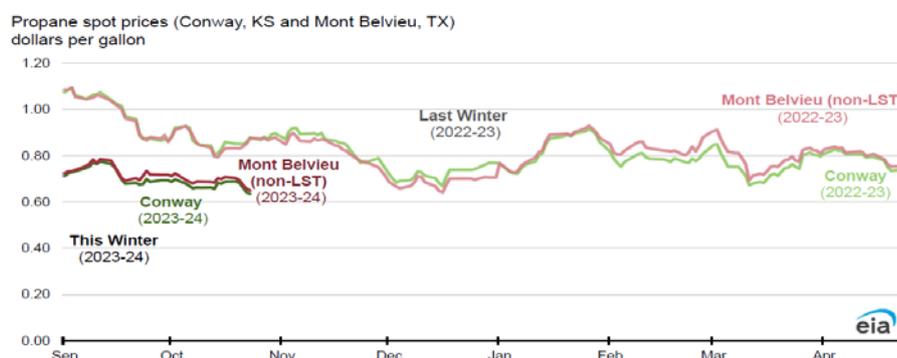
## 2. 2023年11月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
10月月間	150.60	98,600	105,800	+2,900	+5,600

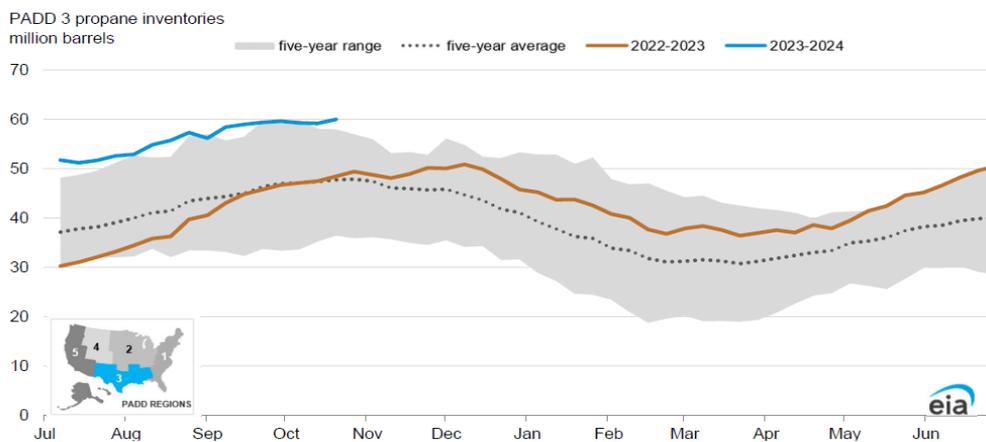
\* TTS平均等について、各社の適用為替レートが4月仕切改定から月間平均に統一された。  
 上記は10月1～31日までの平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成の比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは10月27日までの価格を基にEINで試算（355ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

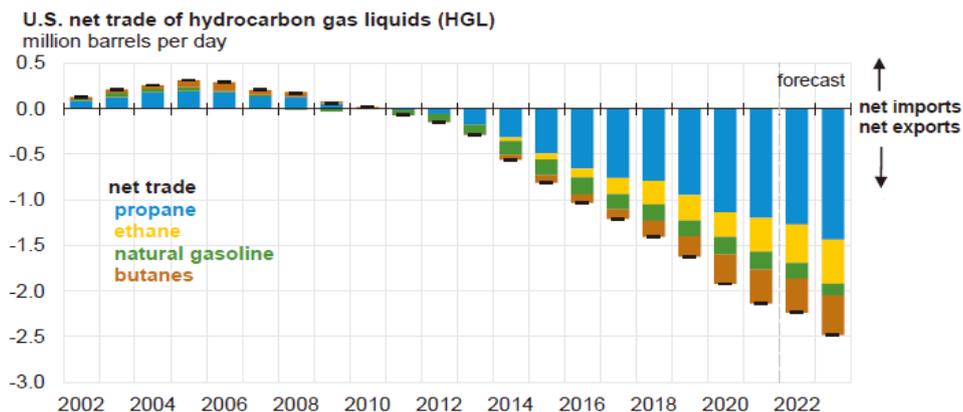
### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②米メキシコ湾プロパン在庫推移



### ③米HGL輸出量推移



Data source: U.S. Energy Information Administration, Short-Term Energy Outlook, October 2023